

## 外国語科(英語)

### I. 単元(題材)について

日本人ではじめて「国境なき医師団(MSF)」に参加した医師の貫戸朋子さんが難民キャンプで経験したことについてのエッセイ。

### II. 単元のねらいと評価規準

#### ねらい

リテリング活動等を行いながら、題材内容を把握し、貫戸医師が私たちに伝えたいメッセージを正確に読み取る。そして、「彼女の下した決断」について、自分の考えを表現する活動を設定し、英語表現力を育成する。

#### 評価規準

##### 「読むこと」の評価規準

##### 「書くこと」の評価規準



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を読み取るために必要となる語彙や表現、完了進行形と強調構文の意味や働きを理解している。</li> <li>国際協力についての文章を読み取る技能を身に付けている。</li> </ul>	自分の考えを表現するために、本文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分の考えを表現するために、本文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。

### III. 単元の指導計画(8時間)

時間	ねらい(■), 言語活動等(丸数字)
1 } 2	■単元の目標を確認し、題材のテーマを理解する。 ① 国際協力について知っていることを、クラス全体で共有する。 ② 「国境なき医師団」の紹介動画を視聴し、その内容を確認した上で感想をペアで話して伝え合う。 ③ 「これまでの人生で最も難しい決断は何か」について、生徒自身が考えた後、貫戸医師が「国境なき医師団」に加入するまでの経過を理解する。題材の概要を把握する。
3 } 6	■題材本文を読んで、国際協力をする上で大切なことを理解する。 ① 難民キャンプの様子を読み、その過酷な状況や日本との違いについて理解する。 ② 貫戸医師が救えなかった命にまつわる体験談を読み、難民キャンプ医療の実情を理解する。
7 } 8	■本単元で学習したことや、教師から得た情報を参考にして、「貫戸医師が下した決断」について、自分の考えを表現する。 ① 「貫戸医師の忘れられない1日」と題して、グループで、英文からどんな会話がなされていたかを考えロールプレイをする。 ② その後、貫戸医師の下した決断について自分の考えを表現する。
後日	ペーパーテスト及びパフォーマンステスト

本時

# Ⅳ. 授業実践

## 本時の概要

キーワードや絵を参考に英文を口頭で再構成する活動

生徒が題材の概要や要点を適切に捉えられるよう、リテリング活動を実施する。また、生徒が題材を自分ごととして捉え、思考を深めるために、言語活動としてロールプレイを設定した。

### 授業の流れ

- ① スモールトーク
- ② 英問英答による内容理解度確認
- ③ 音読
- ④ リテリング
- ⑤ サマリーライティング
- ⑥ 表現活動



### ① スモールトーク

教師から提示されるトピックについて、ペアで1分程度、英語で自分の意見等を表現し合う。授業始めの帯活動として毎時実施している。

#### 会話例

S1: What did you do over the weekend?

S2: I practiced tennis with my friends.

S1: Oh you practiced tennis with your friends. Sounds nice!

S2: It was fun. How about you?

S1: I went to see the movies.

S2: Oh you went to the movie. Sounds good.



発話のリポートを意識(下線部分)

#### 【指導の工夫】

- ① 生徒が英語を使って話したいと思える身近なトピックを提示する。
- ② 生徒が英語で発話することに対する不安を軽減し、また、飽きずに実践できるように毎時ペアを変えながら実施する。

### ④ リテリング

生徒が題材(本文)を適確に理解するために、1年次からパートごとにリテリングを実施している。教師が提示するキーワードの数を段階的に減らし、2年次は、生徒自身がキーワードを設定している。

#### 1年次

Unit 10

Key Words:

- the airport
- back to the hometown
- special characteristics of hometown
- organization
- local government
- environmental facilities
- innovation
- what it means to be human
- how one human another
- a new way to look at human nature

Key Words:

- stage player
- a children's instrument
- classical
- a process of return and effort
- great depth

#### 2年次(本時)

Unit 10

Key Words:

hope know best minority build into action

Miss Ben In Earth

段階的にキーワードを減らす

生徒がキーワードを書き出す

#### 【生徒の声】

- ・本文で学んだ単語を思い出しながりにテリングをすることになり、自然と語彙力が身に付くと感じています。
- ・ペアで披露し合うと、パートナーが本文に載っていない単語・表現で、しかも分かりやすくリテリングをするので、自分ももっと上手くやりたい、と刺激になる。

#### 【活動の効果】

- ① 適度な負荷をかけることで、生徒は自分で成長を実感し、達成感を得ることにつながる。
- ② リテリングのためのキーワードを生徒自身が見いだすために、繰り返し題材(本文)を読むようになり、主体的な読みにつながる。



### ここに注目



単元毎に1回、リテリングを1人1台端末で録画し、形成的評価につなげている。



#### 【録画の効果】

- ① 生徒は、録画前に英文を読み直すことで、内容理解に加えて、英語表現の正確性も増した。
- ② 教師は、各生徒の習熟の程度を確認することが容易になった。

## ⑤サマリーライティング

### 【生徒の記述】

リテリングで、「表現したかったが、表現しきれなかった」ことも含めて、本文を読み返したり辞書等を活用したりしながら、本文内容を要約する。

### 【指導の工夫】

リテリングで単元を締めくくるのではなく、要約を書き出すことで、生徒は実際の内容理解度の確認をするとともに英語表現力の程度を把握できる。教師にとっても、学習状況の把握(形成的評価)につなげることができる。

Summary

Dr. Kanto hopes a lot of Japanese people will know about NGOs like MSF.  
She thinks to join MSF takes courage and find yourself in the minority. But to join MSF is able to get a lot of things.  
Her most important message is to have confidence in yourself and to have the courage to put your beliefs into action.

継続的に実施しているため、英文を書く量が増えてきている。

### 【生徒の声】

・自分のリテリングを振り返り悔しさを感じる部分がある一方、要約する力が身に付いたと感じられるし、英文を書くことに抵抗がなくなってきたと思う。



## ⑥表現活動

### 【代表班発表の様子】

1人称の語りの題材をもとに、グループで、貫戸医師が決断を下した時、4人の登場人物が、どのような会話をしたのかを想像して「ロールプレイ(問い①)」を行い、その後、「自分ごと化を促す問い(問い②)」について自分の考えを表現する。



**問い① Can you imagine what conversation took place?  
Make a dialog of Ms. Kanto's unforgettable day.**

### 【問いの工夫】

グループ内の役割 ①貫戸医師 ②看護師 ③少年 ④少年の母親

本文を読み返しながらか、登場人物の言動や行動を振り返るための「問い」である。新たな思考を働かせることができる。生徒は、会話の作成に苦勞していたが、グループ内でよく話し合っている様子が見られ、生徒たちの学習意欲を高める言語活動となった。

**問い② If you were in her position, what would you do?**

### 【問いの工夫】

※ロールプレイ時と同じ4人グループ内で意見を交換する。

自分ごと化を促す「問い」である。このような「問い」を、日頃からタイミングを考えて投げかけるようにしている。自分のことを話すという点で、授業開始時の帯活動の効果が発揮される場面となっている。

これらの活動からパフォーマンステスト(「書くこと」)へ次頁参照

### <本時のポイント:「問い」から思考を促す>

高等学校学習指導要領(平成30年告示)では、「発信力の育成」が重視されている。そこで、「生徒が英語を使いたいと思う場面」を設定するように意識している。本時における「問い①、②」のように、生徒が表現内容と英語の語彙等の選択で思考しながら英文を作り上げる「問い」を各単元に取り入れることで、段階的に「発信力の育成」につなげる。

### <授業で意識していること:聞き手を育成する視点>

外国語によるコミュニケーション力を育成のためには、スピーキング力の育成という視点と合わせて、聞き手の態度を育成することも有効である。そのために発話をリピートすることを促している。話し手の言葉を「繰り返す」という目的が生じて主体的な聞き手となる。そして、話し手は聞き手に聞こえるように話すことを心掛け、相手意識が高まる。

## V. 学習評価の工夫

### 英語表現力の育成を図る、「書くこと」の領域におけるパフォーマンステスト

#### 言語活動の充実

授業時にその題材内容に合わせて「言語活動」を設定している。その「言語活動」の一環としてパフォーマンステストがあることで、生徒は活動を通じてどのような力を身に付けるべきかという評価規準を理解しやすくなる。外国語科における「指導と評価の一体化」の実現において、大切な視点である。本時では、表現活動における二つの問いを基に、右のパフォーマンステストを実施した。

#### パフォーマンステスト

問い: As for Ms. Kanto's decision, write your opinion in English, using at least five sentences.

#### 【生徒の解答】

<Your opinion>  
I think that Dr. Kanto was good decisions because she moved next situation. I agree with her idea. It is "if another person needing oxygen arrived, maybe this tool could save his or her life". I am sad because he was not improving. But she isn't bad. I think that reality is strict.

#### CAN-DOリスト(「書くこと」)

身近な話題や社会的な話題について、自分自身の考えや気持ちを述べる文章を書くことができる。

※CAN-DOリストに基づき評価規準を設定

#### 評価の基準

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	理由と根拠を明確にしなが ら一貫性のある文章を書い ている。	理由と根拠を明確にしなが ら一貫性のある文章を書こう としている。
b	理由と根拠を明確にしなが ら文章を書いている。	理由と根拠を明確にしなが ら文章を書こうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

## VI. 授業者より今後に向けて

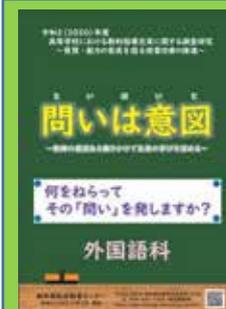
生徒の主体的で深い読みの実現を目指しています。生徒が英文(題材)を読み、何となく内容が分かって終わりではなく、題材を読むことを通して、なぜ、どうして、という視点を常にもってもらいたいです。さらに、「自分であればどうするか」「自分に何ができるか」を意識して、題材を深く読もうとする姿勢をもってほしいと思います。題材を読んで、感じ取ったことを自分ごととして捉え、それを言葉にして伝え、相手に伝わる喜びを生徒自身が味わえる授業づくりをこれからも続けていきたいです。



## 過去の調査研究との関連



深い学びの鍵となる「見方・考え方」についてまとめました。  
令和2(2020)年3月発行



授業改善のポイントとして、教師からの「問いの工夫」に焦点を当てました。  
令和3(2021)年3月発行

